

大学からの社会変革：SDGs and beyond

SDGsと社会変革

私達は今、人類史上の大きな転換点に立っている。一方では、気候変動と温暖化、海洋の微小プラスチック汚染、データ活用と人権保護との調和、地域間格差の拡大、難民問題など、地球規模で取り組まなければ解決できない様々な課題が、社会に顕在化している。他方、近年の情報通信技術を中心とする科学技術の革新、いわゆるデジタル革命により、経済的価値の中心が物から知識・情報へとシフトし、資本集約型から知識集約型への社会の不連続な転換（パラダイムシフト）が起きつつある。このパラダイムシフトには、データ独占によっていっそうの格差拡大がもたらされる危険性がある一方で、これまで切り捨てられていた人々を包摂し、インクルーシブな成長に世界を導くというポジティブな可能性もある。デジタル革命を望ましい方向に向かわせるためには、共感しうる新たな社会・経済のビジョンを明確に掲げ、多様な人々との志ある協働を促す必要がある。

2015年9月に国連総会で採択された持続可能な開発目標SDGsは、幅広い社会課題に関して取り組むべきことを、国際的に合意された形で具体的に示したものであり、良い社会に向けた共感性の高い指針である。日本でも、国・地方自治体、日本経済団体連合会や市民社会、そして本号にあるように様々な大学でSDGsを活用する取組が広がっている。これを好機と捉え、大学と社会との関係を再考し、大学の新たな役割を踏まえて行動に移すべきであると考えている。

東京大学におけるSDGsの活用

東京大学は2017年6月に指定国立大学法人の指定を受けたが、その認定申請にあたり、「地球と人類社会の未来に貢献する『知の協創の世界拠点』の形成」を構想として掲げ、SDGsを最大限活用することとした。そして、この構想を具体的に推進するための司令塔として未来社会協創推進本部（FSI）を設置した（図1）。

まず最初の実践として、東京大学のそれぞれの部局で行われている、じつに多様で多次元の意欲的な研究活動からSDGsに関連する取組を募り、FSI登録プロジェクトとして学内外に発信した。

ほとんどのプロジェクトはSDGsの複数のゴールと関連しており、図2は2019年4月16日現在で各部局から登録された191プロジェクトについて、それらの相互連関を可視化したものである。登録プロジェクトの中には東北地域の復興支援や、発展途上国の技術・政策の開発にかかわるもの、先端技術を使って福祉・健康問題を改善する試み、また社会の問題に学生がインターンで取り組む実践などが含まれ、じつに幅広く学知が展開していることが明らかになった。SDGsという切り口で大学における研究を俯瞰し、可視化することで、個々の研究者の活動の勢いを減殺することなく学問分野を超えた学術の連携を促すとともに、より良い社会の公共性の実現という大きな目標と整合させ、社会に対して関連する活動をパッケージとして提示できる。

公的機関や産業界でもSDGsを指針とする取組が広がる中で、大学がSDGsへの取組を見えるようにすることは、社会との連携を加速する意味でもたいへん重要である。

社会変革を駆動する大学

SDGsの重要なメッセージは、多様な人々が等しく参加し正しく達成をわかちあえる、インクルーシブな社会の実現を目指すことにある。そのためには、新たな生産力としての「科学技術イノベーション」に加えて、それを人々が使えるように実装するための「社会システム」、資金が循環し多くの人々が意欲を持って積極的に参加するために必要な「経済メカニズム」という3つの領域での動きを、適切かつ効果的に連携させる必要がある。この3つのどれについても、過去の教科書にはない新しい知を生み出す創造的な作業が不可欠である。さらに、それらを「良い社会」の建設という共感性の高いビジョンに向かわせるには、「より良い社会とは何か」という思想を掘り下げるための、芸術、言語、宗教などの人文知が欠かせない。長年にわたって知の継承と蓄積に携わり、国境を越えて多様な才知が集結し、さらにはこれまで社会に輩出してきた優秀な人的資源とのネットワークを有する大学は、より良い未来を目指すあらゆるセクターの人材が協働して活動を行うためのプラットフォームとして最適の場である（図3）。より良い社会としての“知識集約型社会”への変革を駆動するために、今こそ大学の出番なのである^[1]。

[1] 大学のポテンシャルを知識集約型社会への変革に結びつけるための具体的な方策については、五神真著「大学の未来地図-知識集約型社会を創る(筑摩書房)」を参照されたい。また、より学術的な取り扱いについては五神真(2018)、未来の人類社会づくりに貢献する「知の協創の世界拠点」の形成、学術の動向、2018年1月号、40-43を参考にされたい。



東京大学総長 五神 真

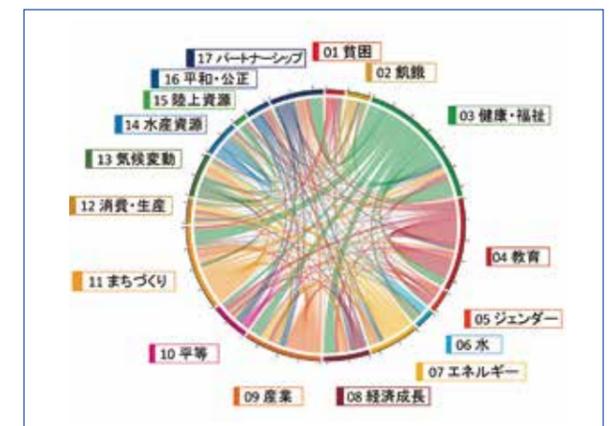


図2 FSI登録プロジェクト相互連関図

地球と人類社会の未来に貢献する大学

指定国立大学法人に指定 (2017年6月)

- 地球と人類社会の未来に貢献する「知の協創の世界拠点」の形成を目指す
- この構想と方向性が合致するSDGsを最大限に活用

司令塔として総長直下に「未来社会協創推進本部 (FSI※)」を設置 (2017年7月)
※ FSI: Future Society Initiative

より良い未来社会創りに向けた変革を駆動する大学



図1：地球と人類社会の未来に貢献する大学

より良い社会を勝ち取るには

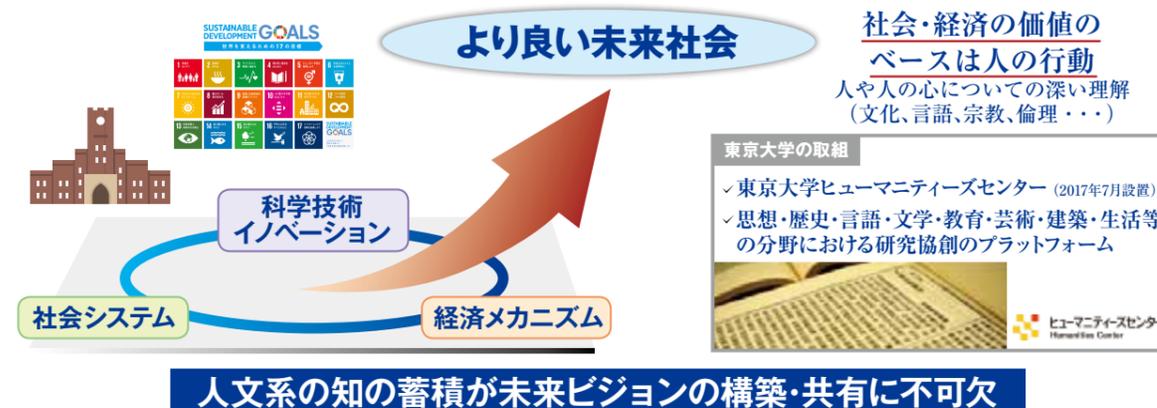


図3：より良い社会を勝ち取るには